小児期発症の高次脳機能障害児・者の実態調査

富山県高次脳機能障害支援センター
野村忠雄、太田令子

目的

平成26年～28年度に全国7機関で行った小児期発症の高次脳機能障害児・者について研究

①実態調査の結果
②学童期の集団活動での課題
③医療と教育との連携
④家族支援について
⑤青年期の社会適応活動の支援
⑥青年期の就労定着実態
⑦小児高次脳機能障害の支援体制

以上を明らかにすること

①全国7機関での実態調査

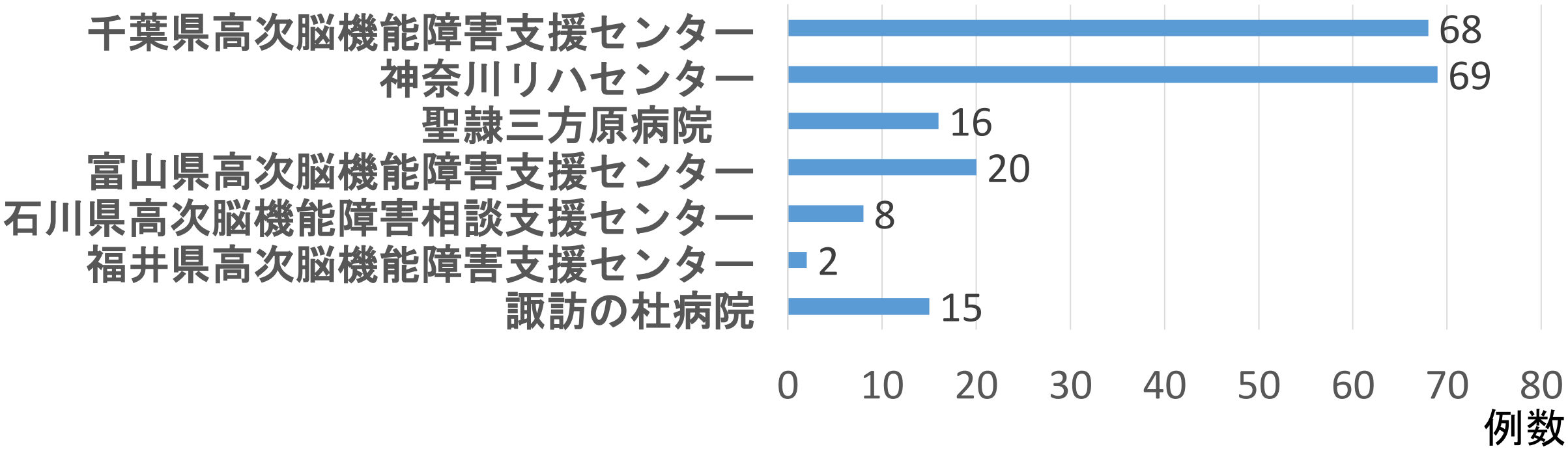
対象

受傷（症）時年齢が18歳未満、調査時40歳未満：198名(男123名、女75名)

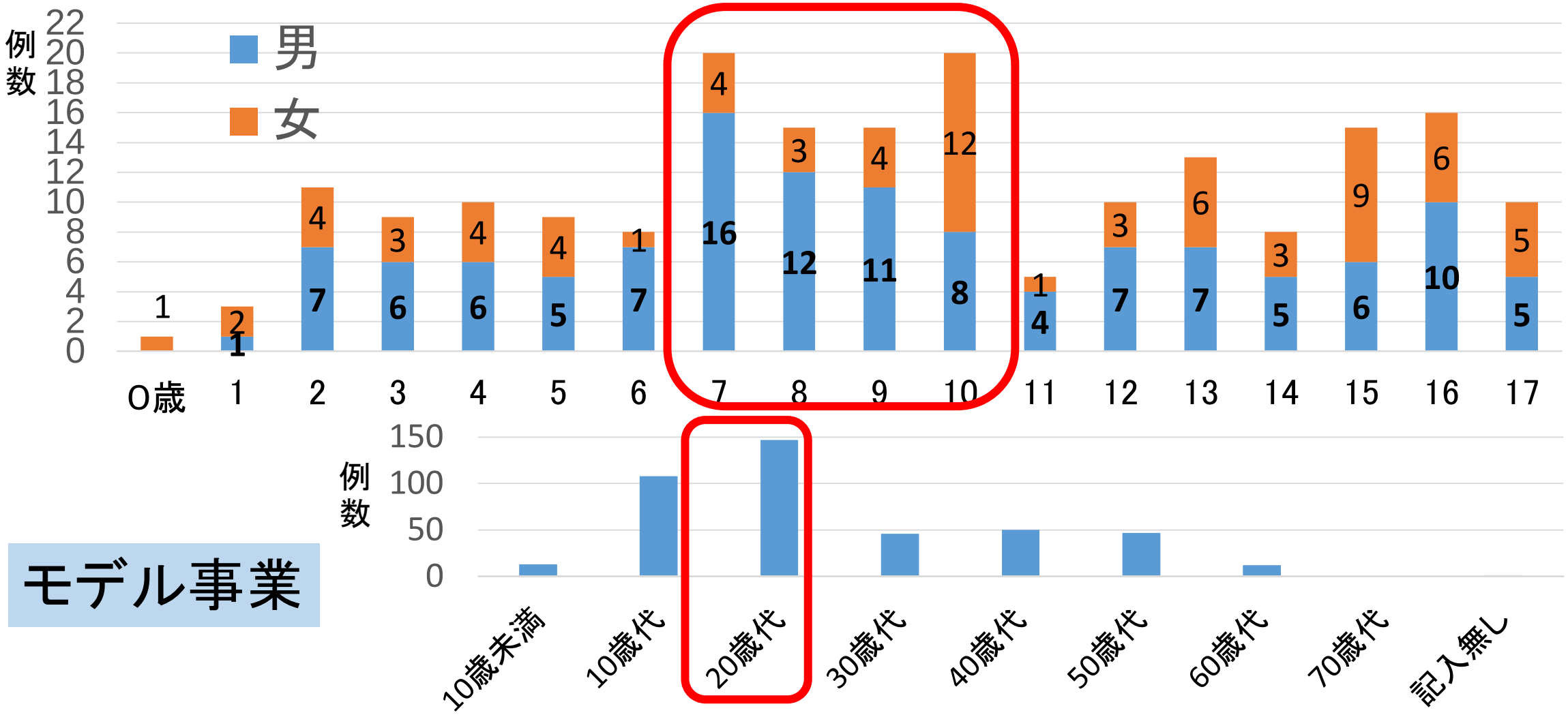
調査期間：2014年11月～2015年10月

調査機関：

本調査	男1.6：女1
モデル事業	男3.5：女1



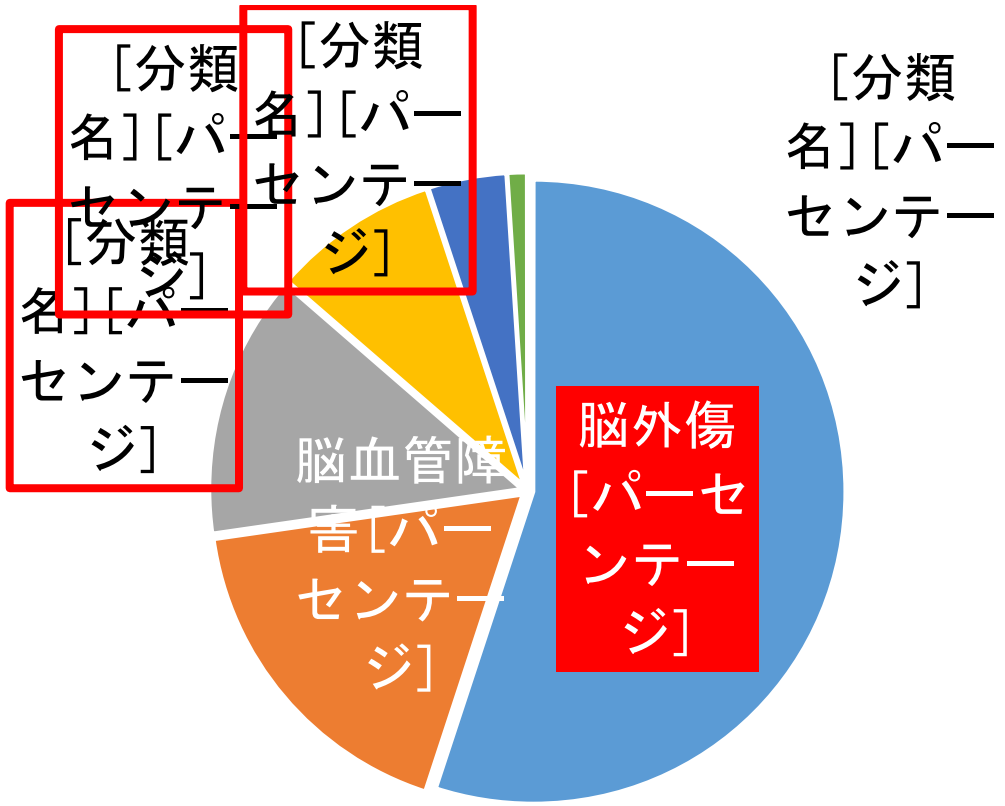
受傷（症）時年齢：モデル事業との比較

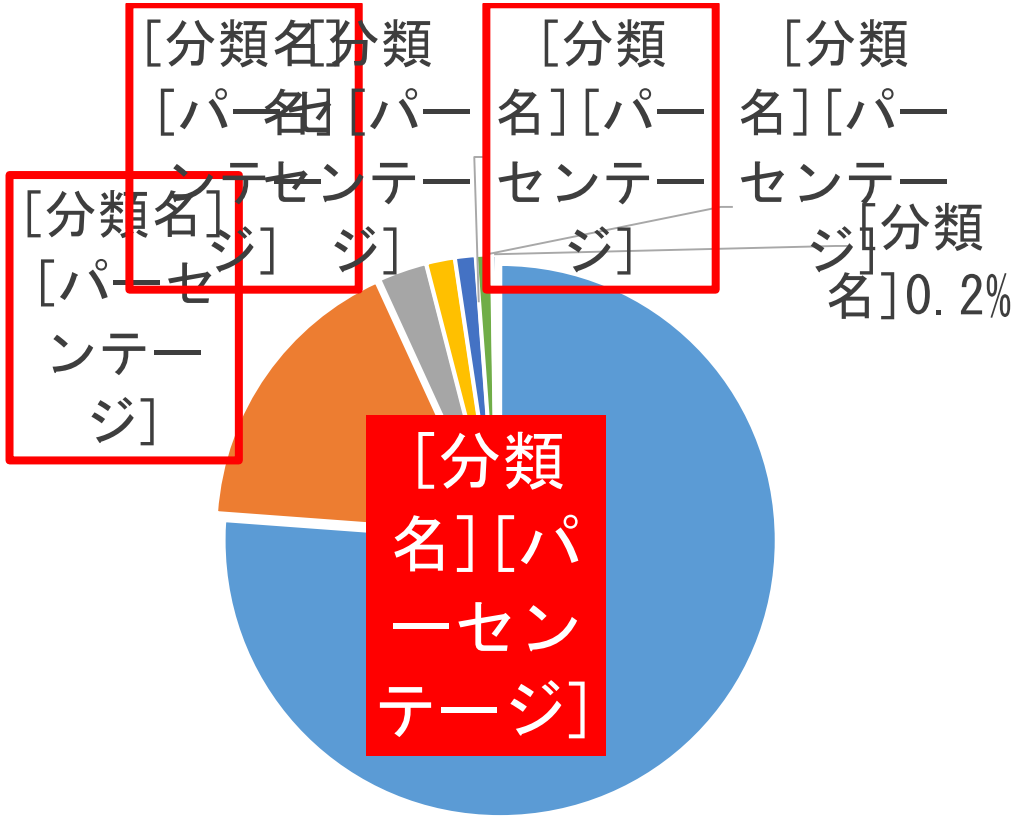


モデル事業

受傷（症）は7～10歳の小学生の時期に多かった。
モデル事業では、20歳代の発症が多く、20歳未満例は28.6%にすぎなかった。

原因疾患　モデル事業との比較

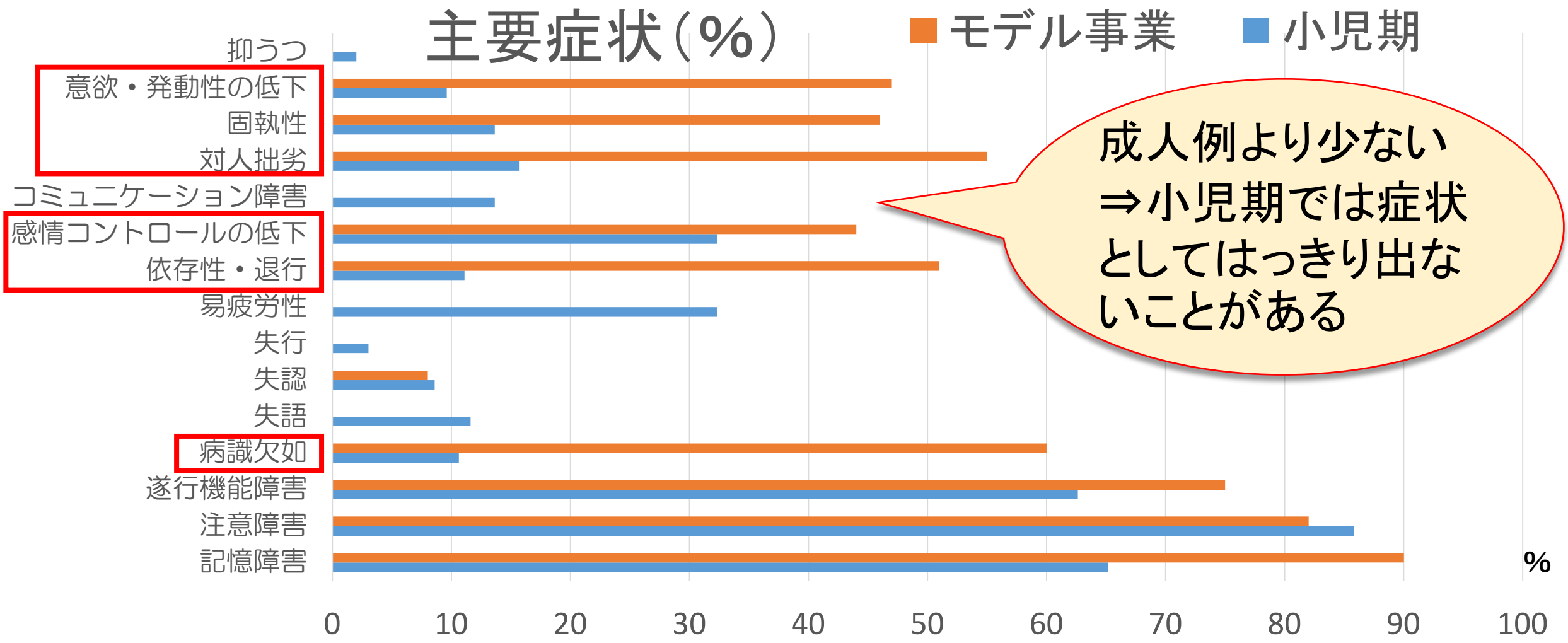




モデル事業

モデル事業に比べると脳炎・脳症、脳腫瘍、低酸素脳症の割合が高かった。

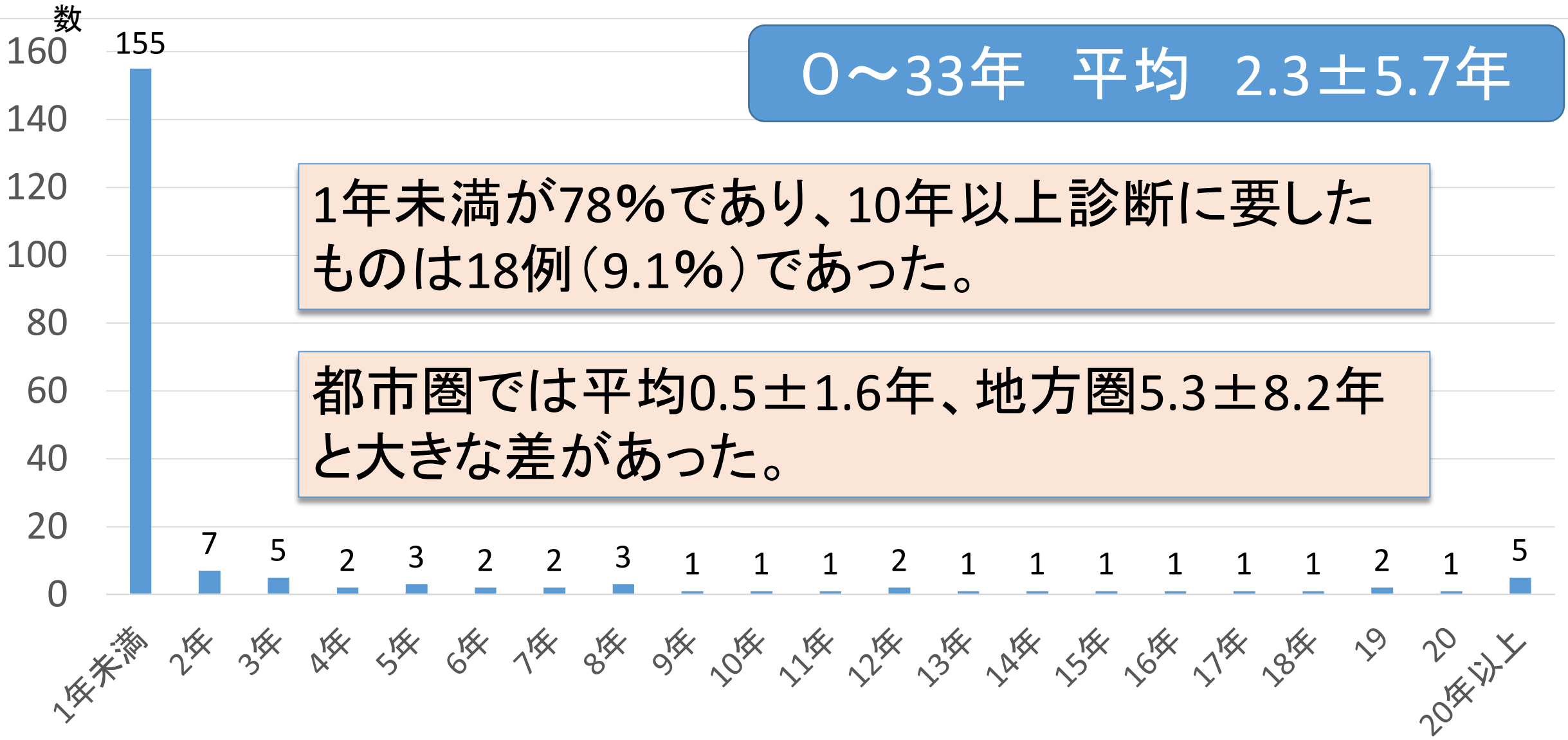
対象者の障害（症状）：モデル事業との比較検討



成人例より少ない
⇒小児期では症状としてはっきり出ないことがある

注意障害＞記憶障害＞遂行機能障害＞易疲労性、感情コントロールの低下＞対人拙劣などの順での発現率であった。

受傷（症）から診断までの期間



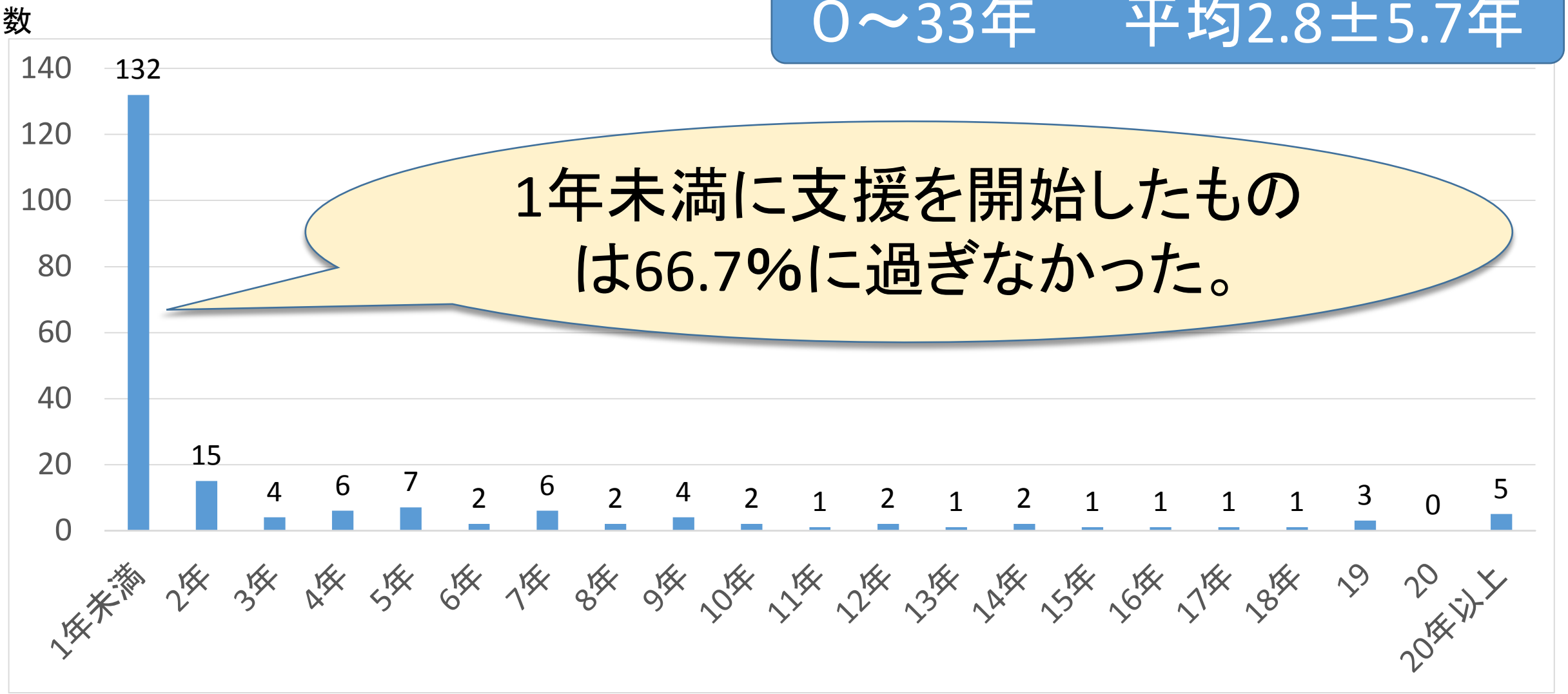
0～33年　平均　2.3±5.7年

1年未満が78%であり、10年以上診断に要したものは18例（9.1%）であった。

都市圏では平均0.5±1.6年、地方圏5.3±8.2年と大きな差があった。

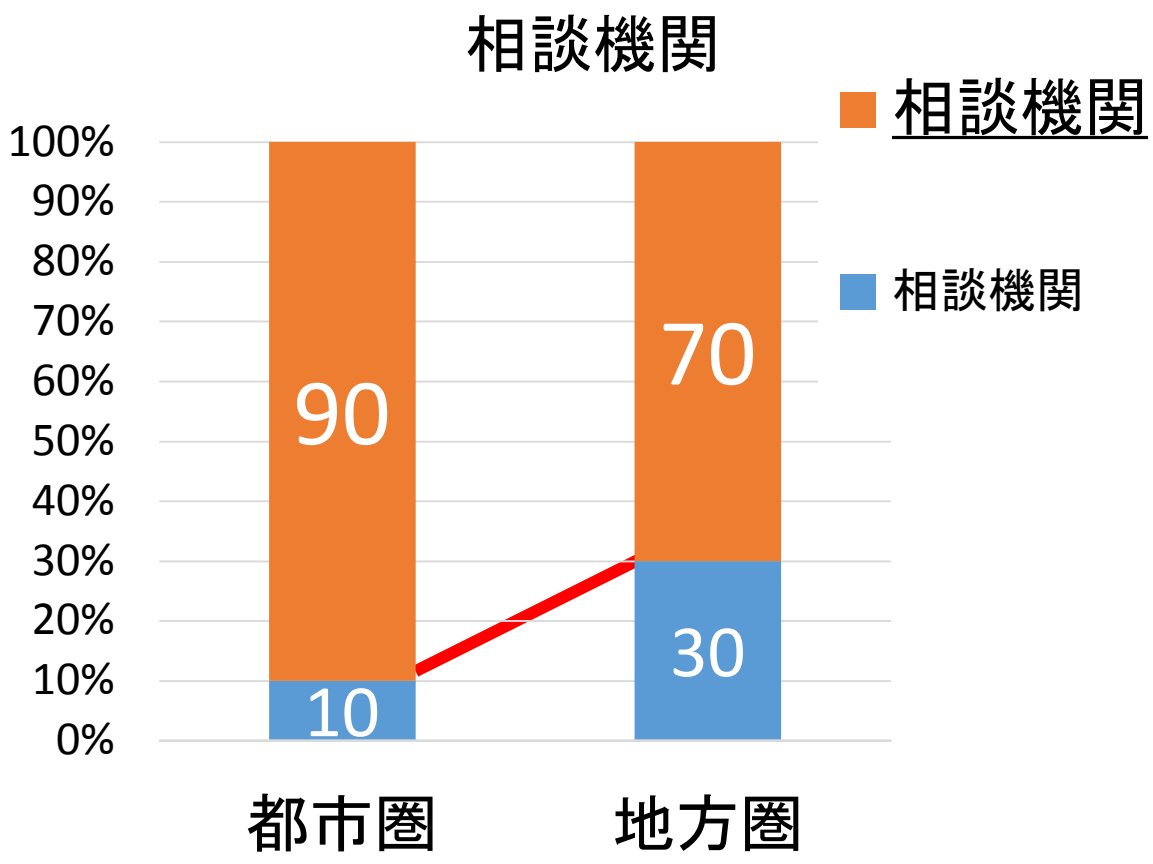
受傷（症）から支援開始までの期間

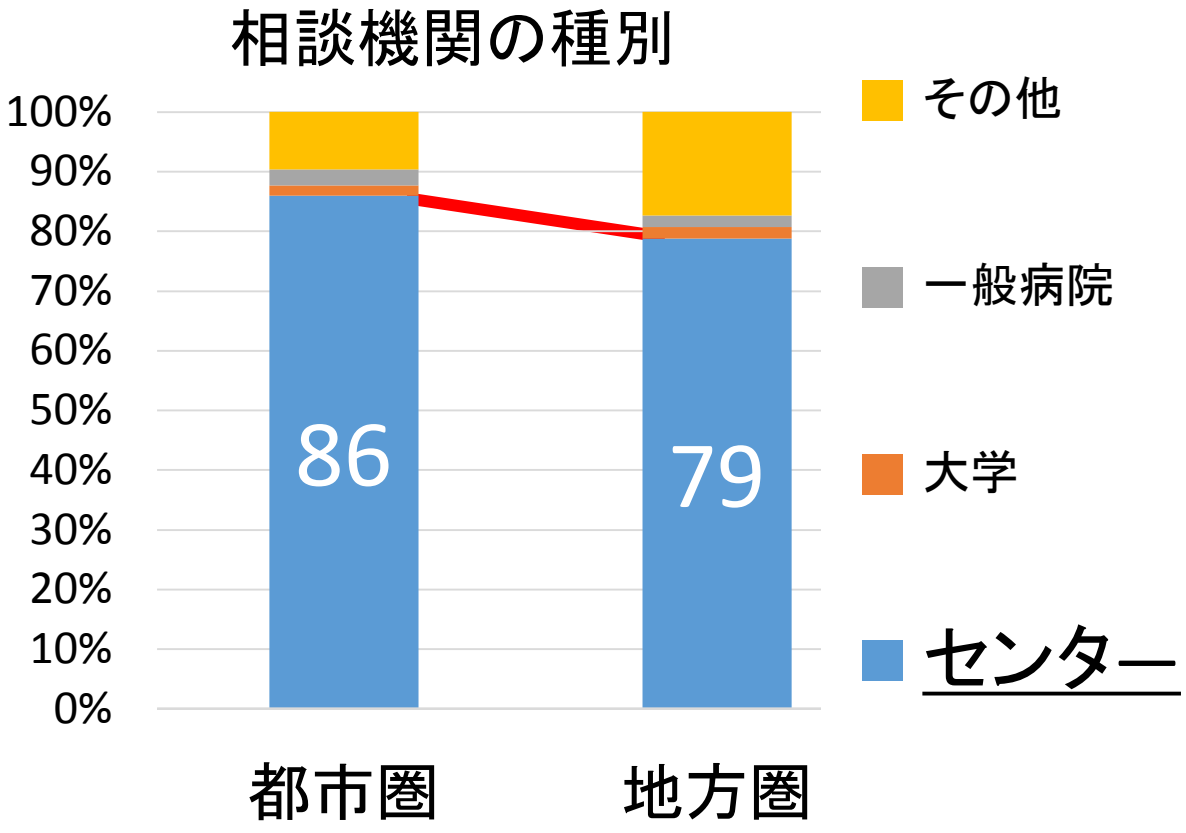
０～33年　平均2.8±5.7年



1年未満に支援を開始したものは66.7%に過ぎなかった。

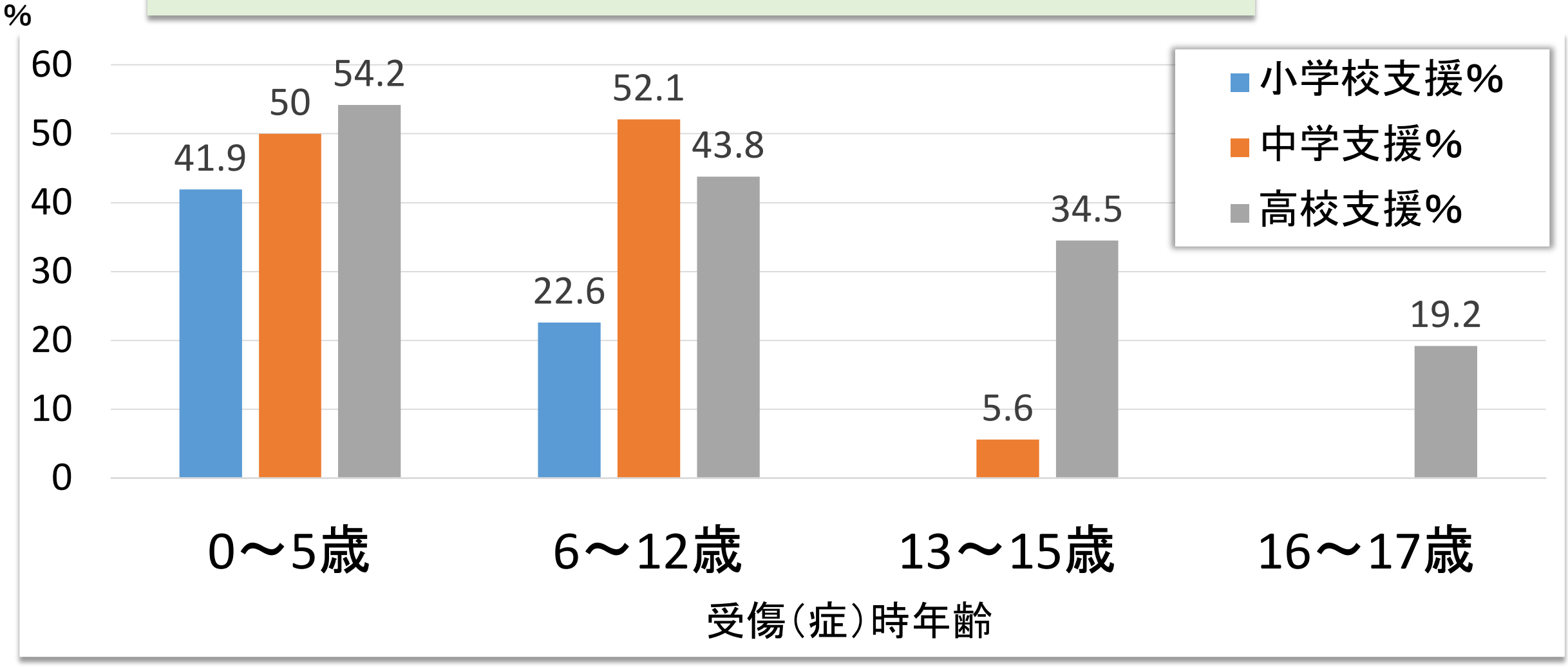
相談機関の有無での地域差





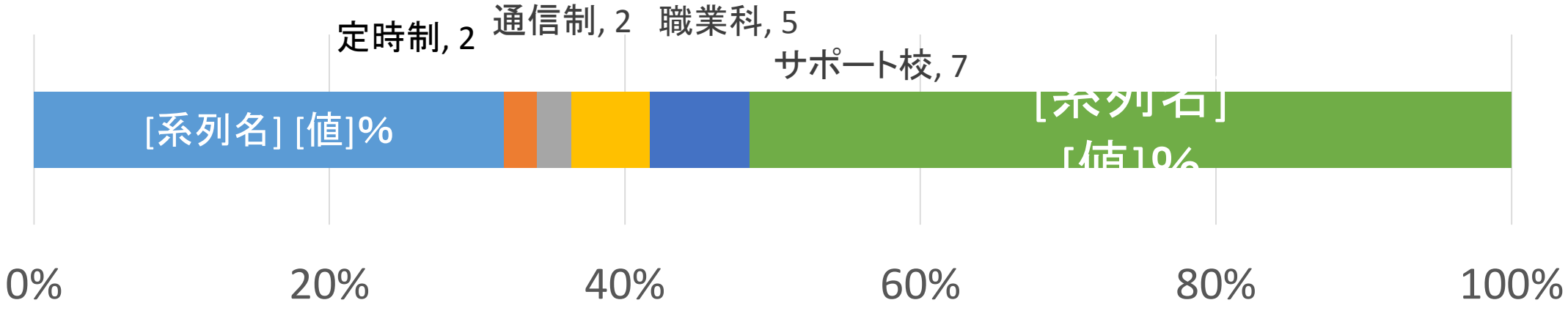
地方では70%が相談機関を持っているのみ。しかも支援センターの利用はそのうちの79%にとどまっており、未だ地域差は解消されていない実態が明らかになった。

支援学級・支援学校の利用率



就学前受傷（症）者では、支援学級・学校の利用が多い。
中学以降に受傷したものでの支援学級・学校の利用は少ない。

高校進学率＝100%



高校中退率＝6．8%、通常級のみでは10%

平成24年度高校中途退学率　1.5%（文科省）

中退率算出方法：（退学者＋除籍者）/在籍者数

本研究での算出方法

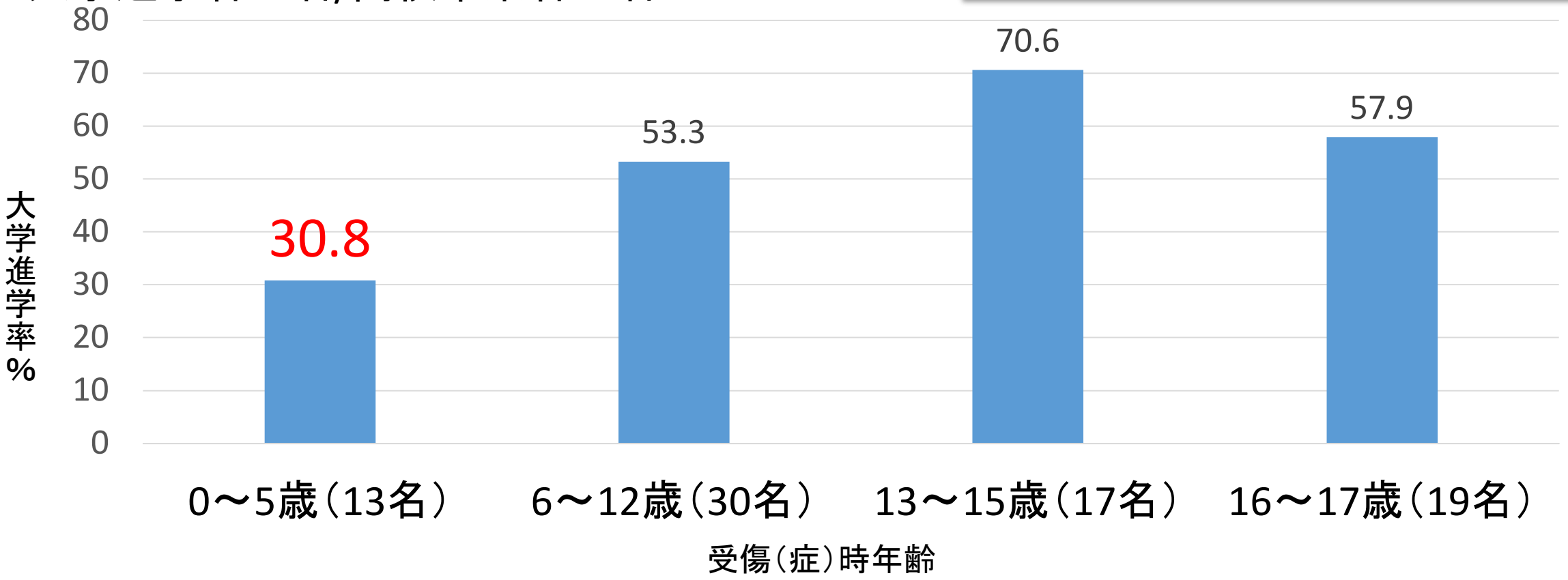
中退者9名/高校進学者132名＝6.8%

中退者9名/通常学校進学者90名＝10%

大学進学率＝54.4%

文科省平成22年度の大学進学率　56.8%

大学進学者43名/高校卒業者79名＝54.4%



大学進学率は平均で54.4%であったが、学齢前受傷（症）者では30.8%と低かった。

大学等中退率＝16．3%

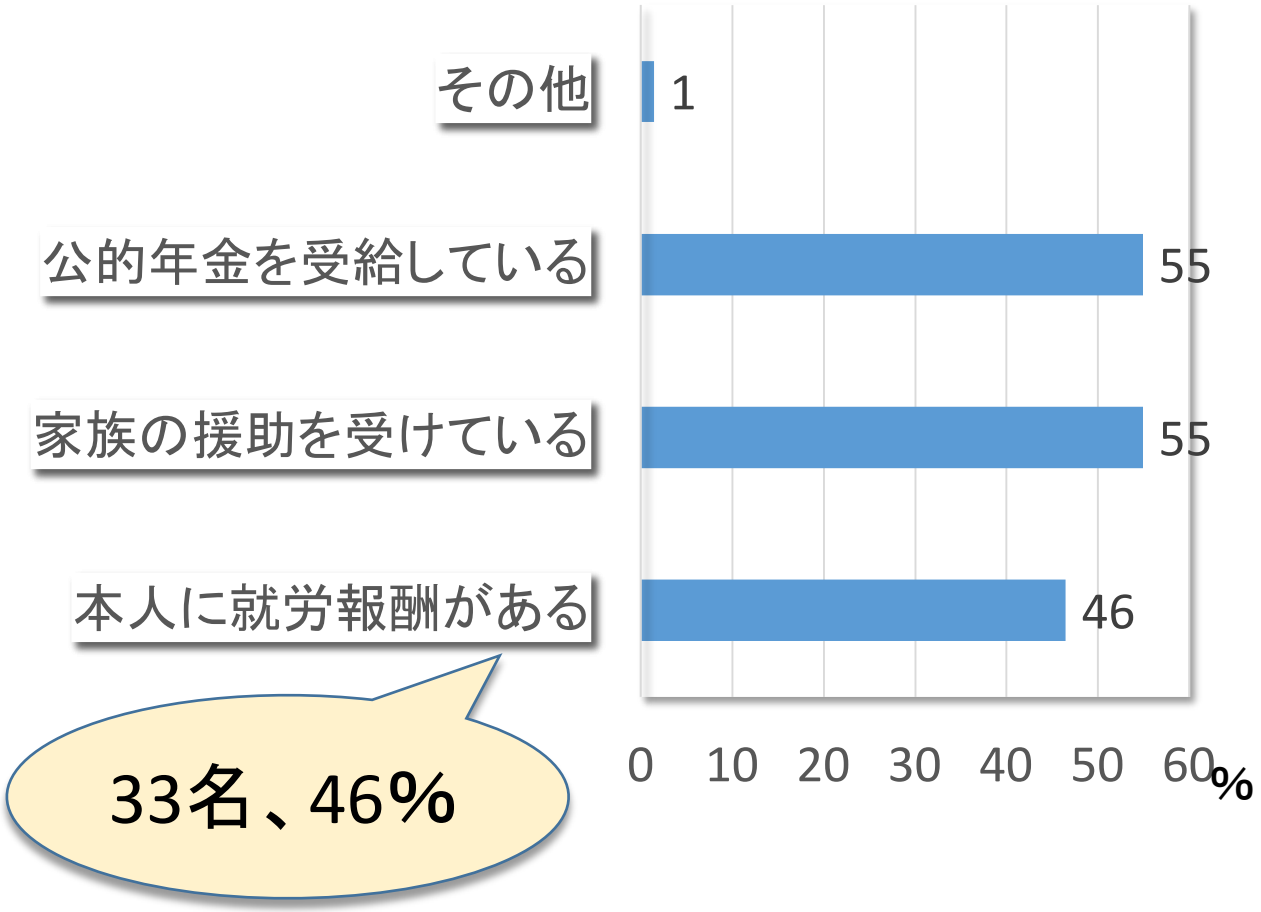
平成24年度　大学中退率　2.65%（文科省）

大学入学者での中退した率
（中退者7名/入学者43名）＝　16．3%
（中退者7名/卒業者＋中退者28名）＝25%

高校生での受傷（症）者では27%、4人に1人が中退していた。

収入（20歳以上71名）

注）「就労報酬」には一般就労と福祉的就労の両者が含まれている。両者を区分けしての調査は行っていない。

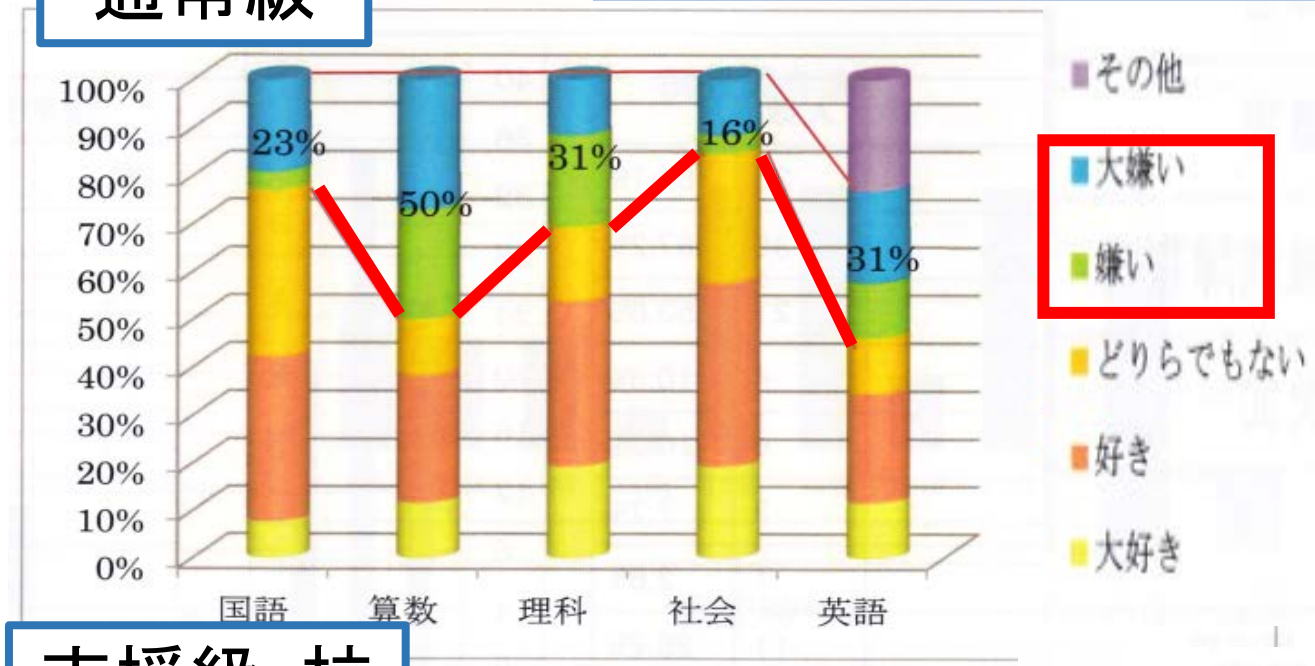


収入源	数	%
就労報酬のみ	13	18.3
就労報酬＋家族	5	7.0
就労報酬＋家族 ＋公的年金	4	5.6
就労報酬＋公的年金	11	15.5
家族の援助のみ	14	19.7
家族＋公的年金	16	22.5
公的年金のみ	8	11.3
合　計	71	100

就労しているものは33名（46%）であった。そのうち就労報酬のみで生活しているものは13名（18.3%）に過ぎず、他のものは家族と公的年金を合わせて生活しているのが実態であった。

②学童期の集団活動での課題

通常級



支援級・校

教科学習の好き嫌い
通常級者と支援校・級者との比較

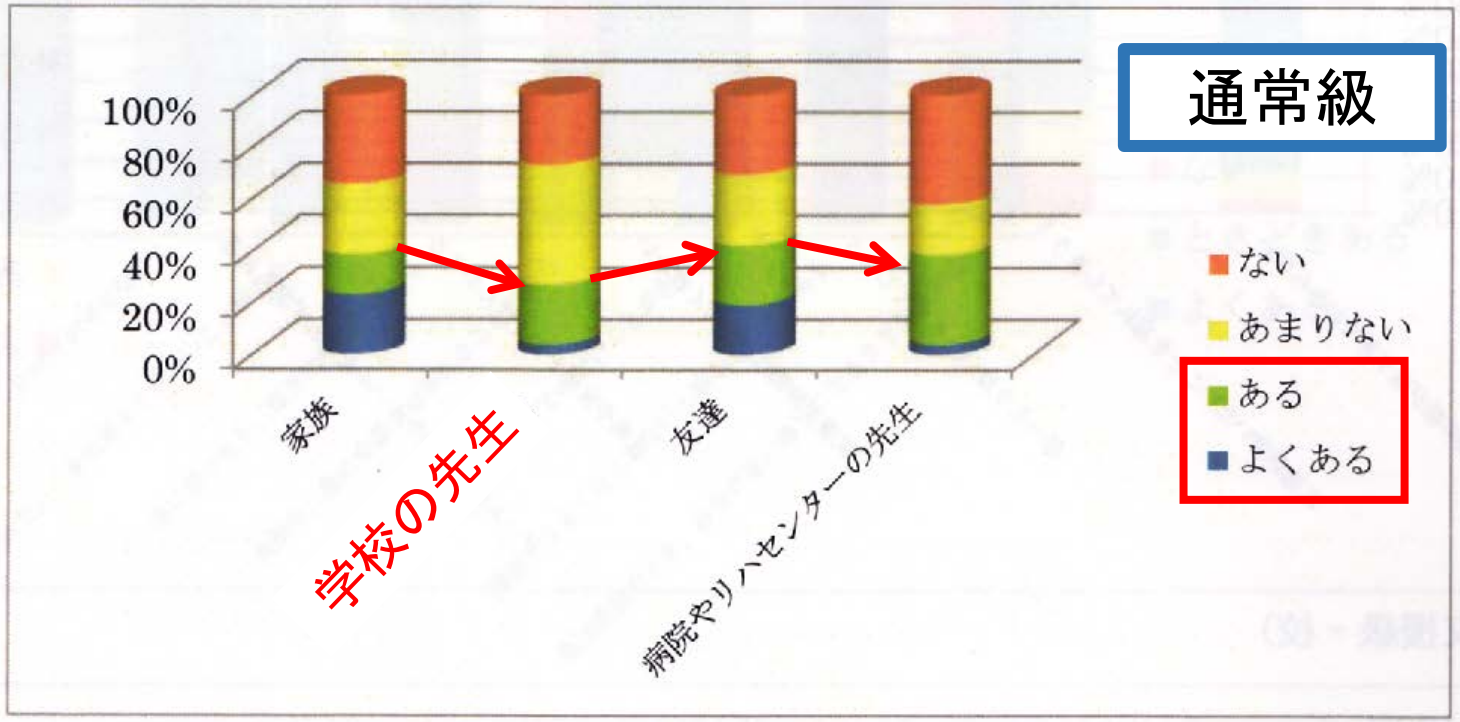
算数、英語において、通常級のほうが「嫌い」「大嫌い」と答えた児が有意に多かった。

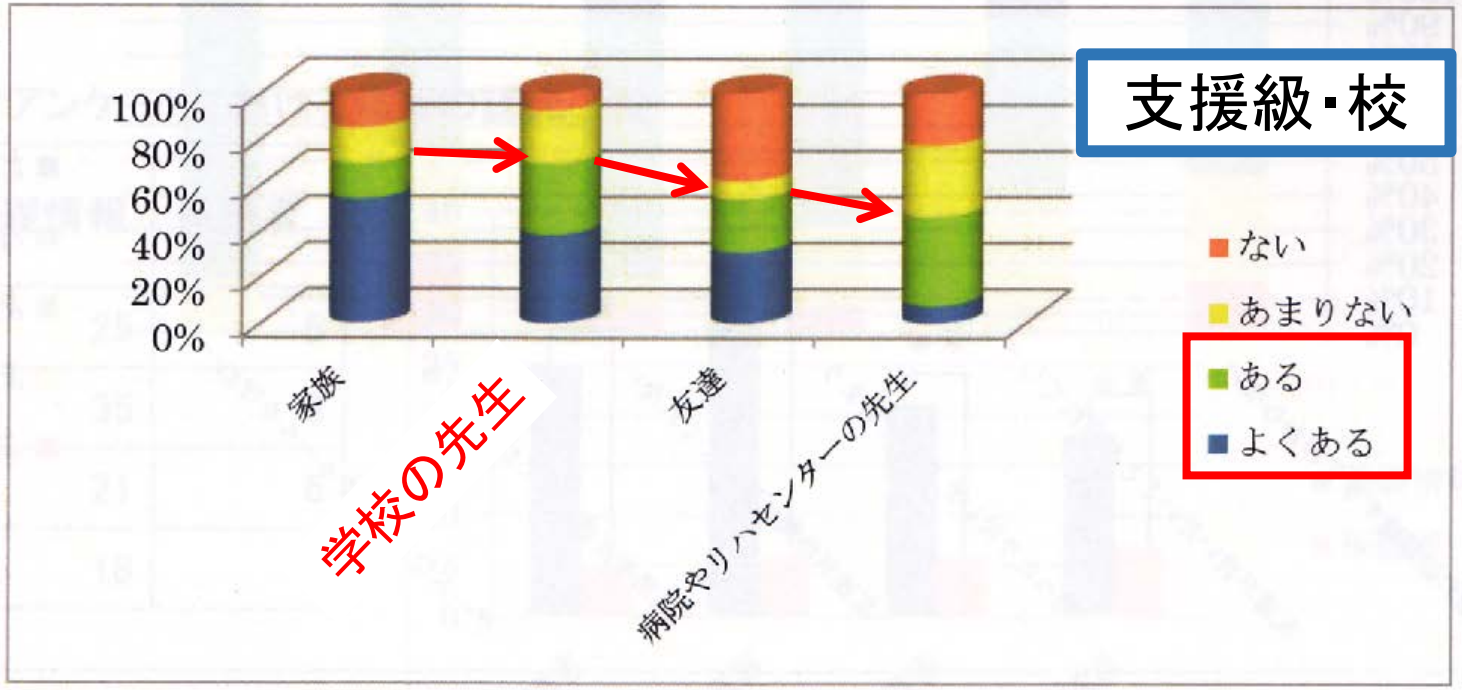
通常学級の子どもでは、学業において適切な支援が受けられていない可能性がある。

調査：諏訪の杜病院

周囲への相談状況

通常級者と支援校・級者との比較





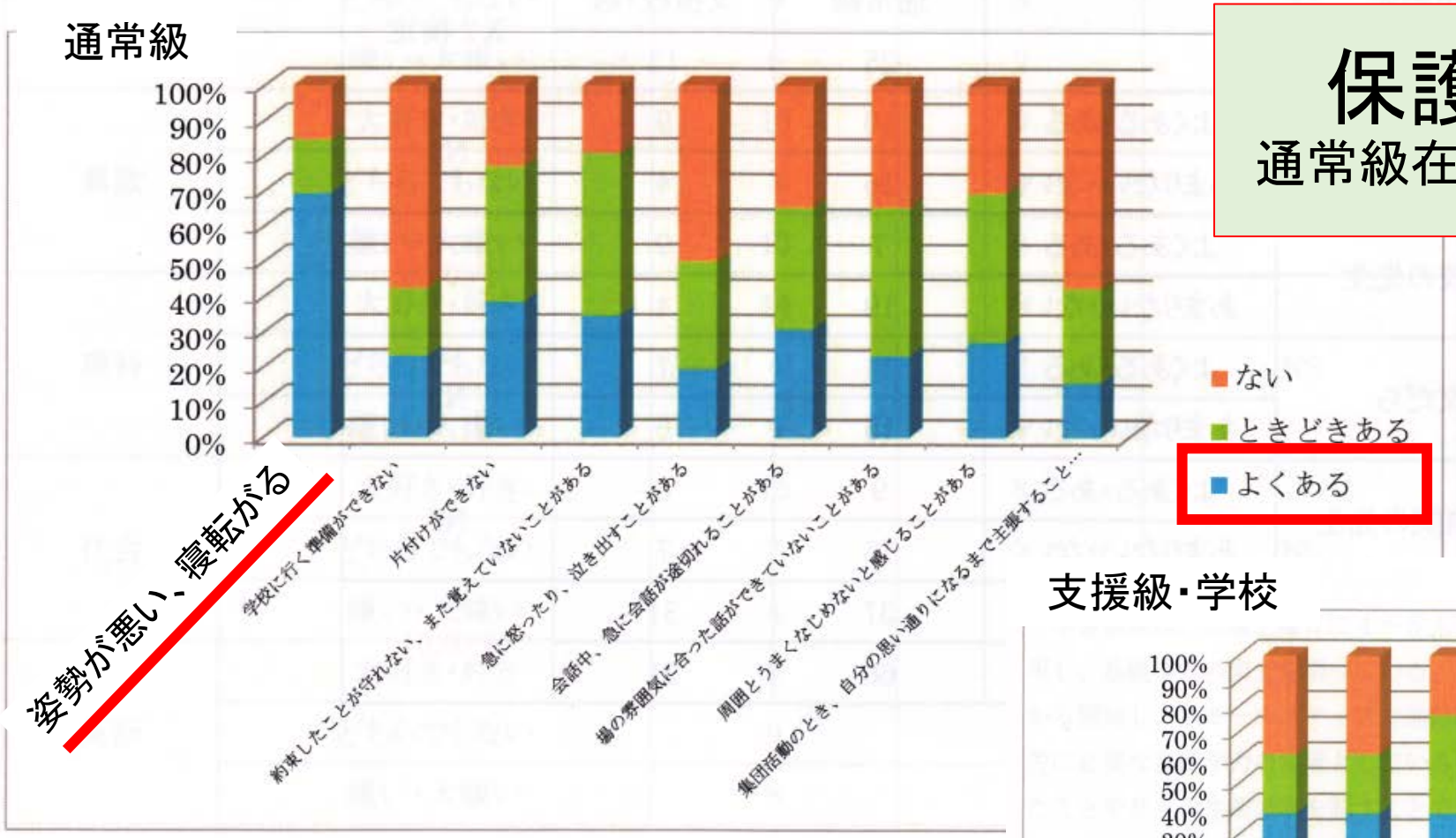
通常級では相談件数が少なかった。特に、学校の先生への相談件数が有意に少なかった。

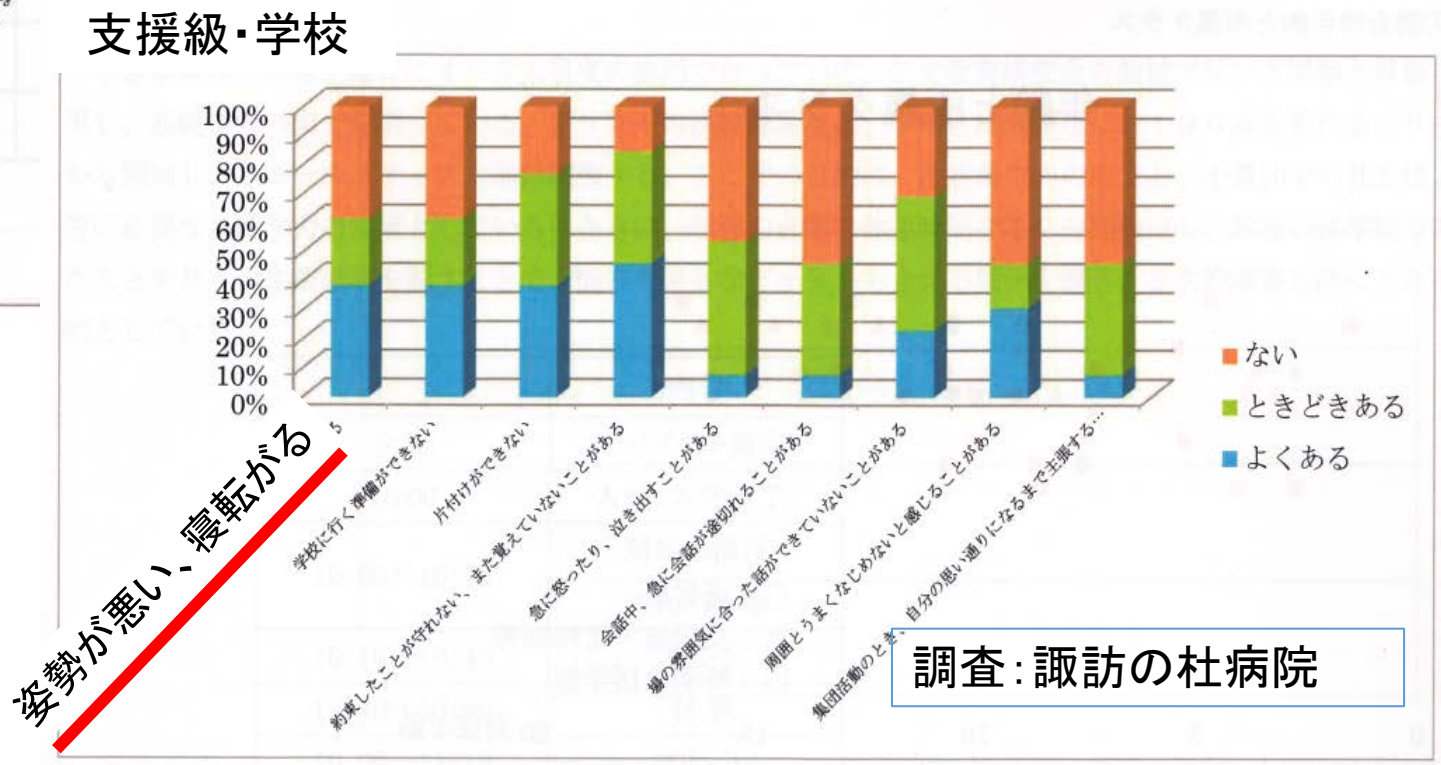
通常学級では支援が不十分

調査：諏訪の杜病院

保護者の困りごと状況

通常級在籍者と支援校・級在籍者との比較



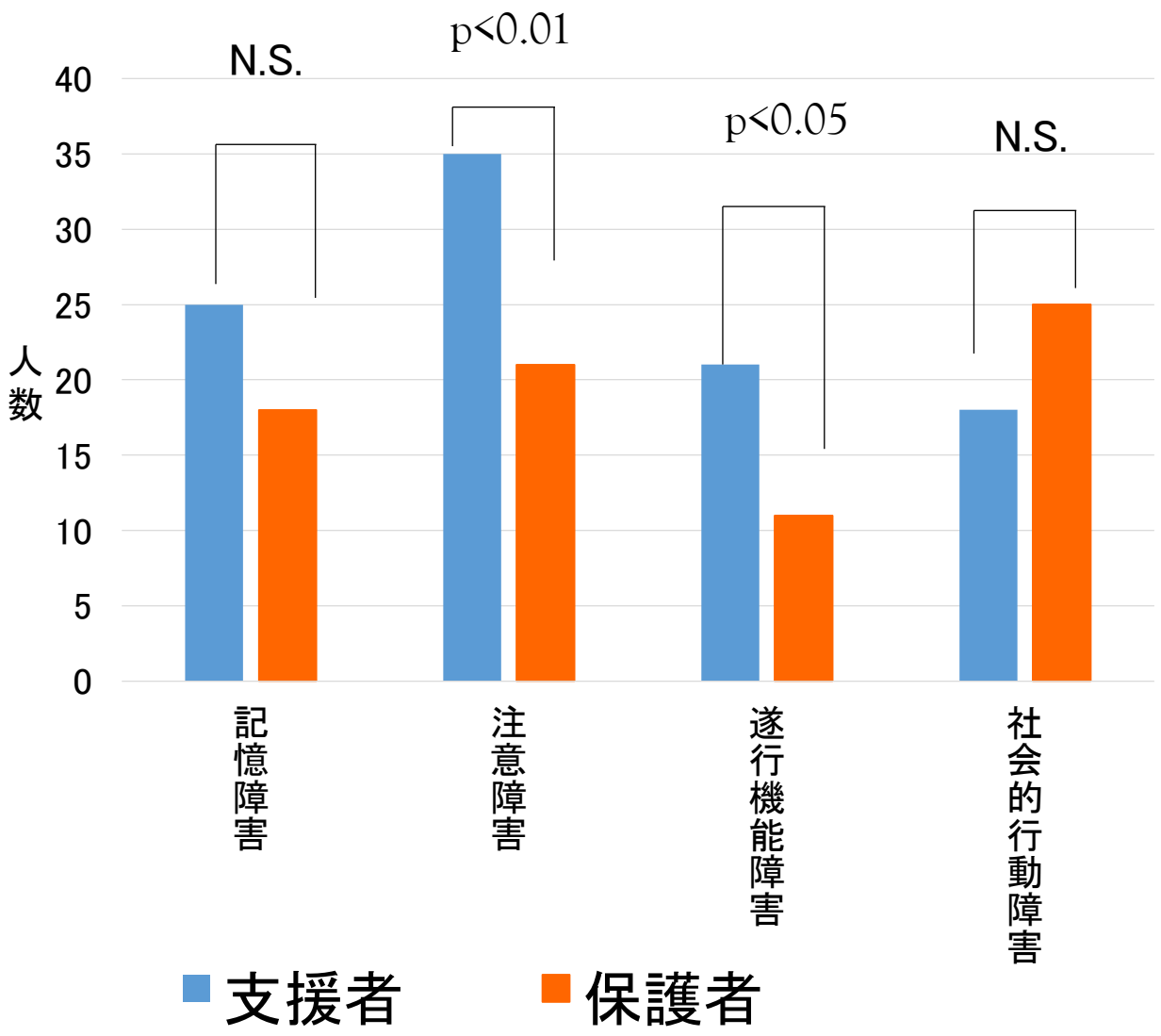


両群とも困りごとを多くの保護者が抱えていた。

困りごとは多いが、相談するところが少なく、孤独である。

調査：諏訪の杜病院

障害の認識



支援者と保護者とで病識に差があった。保護者の障害認識が有意に低かった。

保護者は困りごとを障害ではなく、性格や努力の問題として捉える傾向がある。

注意:「基本情報」とは支援センター職員の障害に対する評価である。

調査:諏訪の杜病院